

将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業 事業概要

- 持続的な観光地経営の実現を図るためには、将来にわたって国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上につながるよう、地域・日本のレガシーとなる観光資源を形成することが重要。
- こうした地域のレガシー形成には中長期的な事業実施が必要であるため、地域と連携しつつ、レガシー形成に関する実現可能性調査やプラン作成を行う。

レガシー形成の考え方

- ① 地域において最も輝いていた時代の建築物や文化を面的に再現し、活用していく取組
- ② 地域で脈々と受け継がれてきた自然・景観、食、文化、遺産（日本遺産、重要文化財、伝統技術等）等を、面的に又は線で再現し、活用していく取組
- ③ 地域における自然・景観、食、文化、人（住民）と、アートなど新しく創出した資源との融合により、地域に人々を惹きつける取組
- ④ シンボリックで一点豪華主義なものを創出していく取組

レガシー形成を行った事例

直島におけるアートの聖地化に向けた取組

（香川県直島町）

- 直島ならではの風景に溶け込むアート作品の展示や他にはない特徴的な構造の美術館の建設等を通じて、直島を現代アートの聖地とするプロジェクトを地域住民を巻き込みながら推進。



レガシー形成に向けた既存の取組事例

名古屋城天守閣木造復元に向けた調査（名古屋市）

- 老朽化等の対策を機に、残されている詳細な実測図等の史料を用いて、江戸時代当時の木造による復元を計画。
- 木造復元した場合の入場者数、収支、経済波及効果等を推計する
フィージビリティ・スタディ調査を実施。

